

# 独立行政法人地域医療機能推進機構

## 第 11 回 二本松病院地域協議会

### 議 事 録

日時：令和元年 7 月 11 日（木）19 時 15 分～20 時 30 分

場所：病院会議室

**出席者** 土川 研也（安達医師会会長・二本松病院地域協議会委員長）  
斎藤 浩樹（医療法人静心会斎藤医院院長・地域協議会副委員長）  
騎西 東吾（代理／二本松市保健福祉部健康増進課長（二本松市福祉部長欠席））  
吉田 敦（安達地方広域行政組合消防本部警防課長）  
安齋 英雄（二本松市社会福祉協議会会長）  
齋藤 剛志（二本松薬剤師会会長）  
吉田 弘二（二本松市岳下区長会 会長）  
矢吹 孝三（二本松市民生児童委員協議会会長）

**欠席** 加藤 清司（福島県北保健福祉事務所所長）

**病院** 六角院長・柳沼副院長・鈴木事務長・安田看護部長・齋藤薬剤部長  
田部井副看護部長・三浦事務長補佐（総務／経理）・村井事務長補佐（医事）  
菅原事務長補佐（経理）・後藤経営企画係長（書記）

**配布資料**・地域協議会式次第

- ・地域協議会委員名簿
- ・第 11 回二本松病院地域協議会資料
- ・概況書（令和元年 7 月）
- ・パンフレット
  - \*産後ケア事業／日帰りケア・宿泊型ケア
- ・病院広報誌 「あゆみ 6 月号」
- ・JCHOニュース 2019 春号

**議事内容**（鈴木事務長進行）

- ・協議会次第にそって

#### 1. 開会

## 2. 院長挨拶

本日は大変 お暑い中、二本松病院地域協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。  
ございます。

今年度は、平成26年4月に地域医療機能推進機構としてスタートしてから6年目を迎え、機構の第2期中期計画の初年度となります。第1期中期計画は昨年度JCHO全体でも黒字経営により無事終了することができました。

JCHO 二本松病院は

独法化から6年間、医師不足の中でも、地域住民の皆様及び関係機関のご支援・ご協力のおかげをもちまして、何とか黒字経営を維持して参りました。

これからも、患者様が十分な医療や介護を受けられる体制作りに貢献して参りたいと考えております。

今年度の人事異動、退職により多くの職員が病院を離れ、22名の新しい職員を迎え4月1日をスタートしております。看護師5名、介護福祉士3名、理学療法士、事務職、ケースワーカー、管理栄養士、JCHO以来最も多くの職員が採用になっております。その中で幹部職員の異動が、ございましたのでご紹介します、事務長の鈴木 厚（スズキアツシ）薬剤部長の齋藤 潤（サイトウ ジュン）副看護部長の田部井 康浩（タベイ ヤスヒロ）が拝命しております。

経営面につきましては、5月までは大幅な減収もなく黒字を維持しております。

今年度は、電子カルテの導入、健診車の入れ替えにより費用負担が大きいため施設基準等を常時見直し上位基準を獲得し、増収に努めて参りたいと思います。

高齢化と人口減少を見据えたうえで、地域からの期待に応えるためにも住民の皆様や、行政、保健所、医療機関、介護施設などの連携が、不可欠ですのでご協力をお願いいたします。

本日は、当院が地域のみなさまに良い医療・介護の提供をして行くため、様々なご意見をいただきたいと思っております。

どうぞお協力のほどよろしく願いいたします。

### 3. 議事（土川安達医師会会長進行）

鈴木事務長より二本松病院地域協議会資料に添って説明

【平成30年度及び令和元年度5月までの状況】

- ・入院、外来患者数状況について
- ・救急車受け入れ状況及び産後ケアについて
- ・健康管理センター実績について
- ・訪問看護／訪問リハビリテーションの状況について
- ・入退院センター件数について
- ・附属介護老人保健施設月別入通所者状況について
- ・二本松第1地域包括支援センターについて
- ・居宅介護支援センターについて
- ・平成30年度収支及び令和元年5月までの収支状況

～質疑応答～

：土川安達医師会会長（地域協議会委員長）

前年度比で患者さんの数は減少していますが収入は増えているのは収入の区分が変わったからとか何か仕組みがあるのでしょうか。

：六角院長

患者さんは減っていますが施設基準の見直し等をして上位点数を取れるよう努力しています。

：土川会長

外来診療科別に小児科の数が1人とか2人いましたが

：六角院長

外傷の受診になります。

：矢吹民生協議会会長

健康管理センター実績でストレスチェックがありましたが、こちらは個人的にやってらっしゃるのか、それとも企業の健康診断の際にやっているのでしょうか。

**：六角院長**

企業の健康診断で実施しております。

**：土川会長**

昨年から今年にかけての色々な数字のデータの推移に関してなにか病院さんで今後こうしたらいいとかこうなるだろうという展開とか予想とかあるんでしょうか。

**：六角院長**

患者さんは減っている傾向にはあります。それは常勤医師が足りないのが一番の理由です。常勤医師が充足すれば外来患者さんも増加します。医師確保については、常に大学をお願いしています。今年からは大学の総合内科医の先生が1人応援から2人体制となり、色々な疾患を見てくれるのですごくありがたいと思っています。これからも外来診療の充実が必要と考えています。

**：土川会長**

地域医療構想の中で二本松病院さんの方向性はどのようになっていますか。

**：六角院長**

地域密着型病院として、かかりつけ医として医科大学や大病院、開業医の先生方と連携しながらどんな疾患でも診る病院としてこれからもやっていきたいと考えています。

**：土川会長**

その他何かご質問ございますでしょうか。

少ない先生方で実績がプラスになっているというのは本当に大変な事だと思います。

ありがとうございます。

**：安齋社会福祉協議会会長**

介護保険の収入というのがここ毎年一千万くらい減っています。収益が少ない場合には職員はなんとか出費を少なくしようと皆一生懸命節約しながら収益が残るようにやっています。それで去年は1200万円の利益が出ました。車が50台くらいあるんですが、昨年24時間テレビに応募し500万のハイエースの車イス10人乗りを2台頂くことが出来ました。あとは石川諒くんの男子プロゴルフのジャパンゴルフツアー選手会では復興三県岩手、宮城、福島に今年で6年連続福祉車両が県内の社会福祉協議会に寄贈され昨年10台、今年も10台頂き何とか黒字にはできております。

また、先日院長先生が地域の集会所にいらして婦人講座の講演会をして頂きました。

うちの家内が行きまして大変いいお話でしたと言っていました。地域に繋がった活動

をして頂いていると思ひまして感心しました。これからも薬剤師さんや看護師さんの講演会をして頂き地域の人達と語り合つて頂きたいと思つています。

また、4月から月1回「社協だより」を発行しております。病院さんの市民講座の案内是非とも社協に言つて頂ければ載せたいと思ひます。

**: 六角院長**

ありがとうございます。われわれの仕事は地域の皆さんと繋がつて健康に関するお話、病気のお話をしながら理解を深めていくのが大事な事だと思つていますのでこれからも続けていきますのでご協力お願いします。

**: 安田看護部長**

看護部より前回もお話しましたが、感染の認定看護師と糖尿病認定看護師による講演会を、いつでも地域からのご要望があれば講演に行きますのでご協力をお願いします。また、何人か認知症認定看護師が研修に行つております、講演の要望があればいつでも出向いてまいりますのでご協力の程よろしくお願ひいたします。

**: 矢吹民生児童委員協議会会長**

地域包括支援センターが始まりまして我々民生委員もたいへんありがたく思つております。

前回お話しましたが、我々も月1回会議がありその席に足を運んで頂きこの場をお借りしまして感謝申し上げます。

我々民生委員もそれぞれ活動はしておりますが、まだ末端まで浸透していないのが実態です。そんな中で地域包括支援センターが出来上がったことで一つの輪が二つになり二つの輪が三つになることに意義があるのかなと思ひます。これからも地域包括支援センターさんと連携を取りながらお互い頑張つていければと思ひます。今後ともよろしくお願ひします。

**: 吉田警防課長**

日頃から広域消防行政に深いご理解とご協力頂いておりますことに御礼を申し上げます。

今年1月6月までの救急搬送人員ですが、トータルで1825人ありました。前年比と比較しますと82人減つています。その内で二本松病院さんは251人の傷病者を受け入れて頂き全体ですと13.8%の方になります。

そして救急救命士の研修につきましては、平成27年1月から受け入れて頂きまして研修者からは救急の研修はもちろんのこと病院のスタッフの方々と顔の見える関係を作ることが出来て大変有意義な研修をさせて頂いていると聞いております。

今年度も引き続きお願いできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

**：土川会長**

資料にあります救急車の受入れの入院率が増えているのは？

**：六角院長**

高齢者が運ばれることが多くなり入院率が高くなったものと思います。

**：土川会長**

だんだんと 2025 年に向かって 100 才長寿になり超える方が多くなり、患者さんを紹介する立場だと管内どこの病院に頼んでも断られる状況が生まれてきてしまうのかなと一番心配しています。

**：齋藤医院院長**

産後ケア事業ですが、宿泊型ケアと日帰りケアを選ばれる方というのはどのようなケースがあるのか、またサービスの違いとかもあるのか教えてください。

**：安田看護部長**

産後のショートは以前から市役所の方と両親学級をやった場合に退院が早いのでそのまま泊まれたらいいなという声があっただけでショート、宿泊型を作らなければならぬと役所の方々とお話しをしながら立ち上げました。退院してすぐに使うという方もいますし、一旦お家に帰られて少し育児に疲れたので一泊しますという方もいらっしゃいます。またお産前から少し精神的にうつになったりとか産後育児に疲れたから使う方もいます。産後デイは 10 時から 16 時までで、宿泊は 10 時から翌日の 9 時 30 分まで助産師がつきますのでいつでも支援が出来るような形を取っています。

#### 4、意見交換

**：土川会長**

医師不足でなかなか補充が得られないのは、福島県全体の問題で 30 代 40 代の Dr が少なくなり震災後医大自体が出したくても出せない状況にあります。我々医師会も若い Dr にやってほしいと思っているんですが、今のところ解決の目途が立ってもなく医療スタッフの離職 病院さんも現役で頑張れるうちはいいんですがその後が心配です。院長先生の定年はあるんですか。

**：六角院長**

私は定年延長になりました。

**: 齋藤院長**

先ほどお話をお聞きしましたが、産後うつは非常に悲惨な結末になる場合がありますのでそこをしっかりと見て頂いているみたいなので安心しました。これからもよろしくお祈りします。

**: 齋藤薬剤師会会長**

薬剤師も地方の薬剤師が非常に少ないのはかなり以前から問題になっています。安達管内の病院や我々会員の薬局は人が足りているところはどこもない状況ですが、今度は新しく齋藤先生が戻って来られて薬剤師会としても今後一緒に地域の活性化として活動していければなあと思います。今後ともよろしくお祈りいたします。

**: 矢吹会長**

私たち民生委員は今年の 11 月 30 日で任期満了になり二本松方部には 141 名の民生委員がおります。その中で一斉改選で変わり 1 期は 3 年ですが 1 期で終わられる方が全国で約 6 割の方がお止めになります。先生方もそうですが、民生委員も人手不足が大きな課題となっております。これからも地域包括が中心となってお相談しながらそして連携をとりながら進めていくのが理想なのかなと最近つくづく思います。今後ともよろしくお祈りいたします。

**: 騎西健康増進課長**

この場をお借りしまして検診等ではお世話になっております。市といたしまして市民検診のやり方を今年度から変更いたしまして 8 月からのスタートを 2 ヶ月早くして 6 月から始めたわけですが受診録で印字誤りがありまして関係医療機関には多大なご負担をおかけしていることをお詫び申し上げます。

先ほど事務長さんのほうからご説明ありました産後ケアにつきましては、平成 28 年 10 月から受託頂きまして今年 4 月からは宿泊ケアということで希望を充実し受託して頂き御礼申し上げます。また地域包括支援センターは市内で一番人口の多い地域として 29 年度から受託して頂きまして感謝申し上げます。これら両方とも市からの委託事業ということで実施して頂いてるわけですが、これからも病院さんと連携をとりながらよりよい市民サービスに向けまして努力してまいりたいと思いますので今後ともよろしくお祈り申し上げます。

**: 吉田課長**

県内の救急隊はいずれも病院手配には苦勞しています。そのような中で二本松病院さ

んにおかれましては一発で受け入れをして頂きますことを厚く御礼申し上げます。私どもは管内で起きた救急に関しては管内の病院で落ち着きたいというのが理想でございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

**: 安齋会長**

病院には月一度外来でお世話になっています。その際一緒に職員の方も座っていたのでどうしたのかと思いましたが、ワクチン接種の診察待ちとの事、文句も言わず座っていたので少しの待ち時間でも我慢しないといけないなと思いました。

**: 吉田岳下区長会長**

個人的には体調管理をやってはいますが万が一の時には皆さん達には色々とお世話になると思います。その時にはよろしくお願いいたします。

**: 鈴木事務長**

どうもありがとうございました。

**5、閉会のあいさつ**

**柳沼副院長**

委員の皆様、本当にお忙しい中またお疲れの所、遅くまでありがとうございました。二本松病院、JCHOになってから6年目になりまして最初の5年間は「地域医療機能推進機構」と名前のおり地域に密着した病院ということを第一目標としました。数字目標としては、紹介、逆紹介率を上げるということで努力してまいりましたが、極力お断りしないで100%引き受けさせて頂くようにしております。2025年問題大変ですが、ゆりかごから墓場までという言葉がありますが、本来ですと当院で産婦人科から小児科からスームレスに老人まで見させて頂きたいところですが、御存知のようにスタッフが充足しませんで色々ご迷惑をおかけしております。なんとか平成28年10月に産後ケアが始まって、それから検診業務もなんとかやらせて頂いてまいりました。これから先はどんどん高齢者が増えていき、救急の要請もあるかと思えます。柘病院さん柘記念さんとは診療分野があまりタブらないということもございまして、これからも同じような形態で診療を行って行くことになるかと思えます。当院はスタッフが少ない為に空きベットがございまして極力患者さんは受け入れさせて頂き地域に貢献してまいります。

しかし、現実問題スタッフが少ないので大学病院の先生方に夜の当直をお願いしているため、当直時間帯になりますと受け入れが出来ないこともございまして、その辺も含めて極力改善を図って次の5年間に向かっていきたいと思えます。最初の5年間



は地域密着型、次の 5 年間はさらに密着型ということでやっていきますので、今後ともご支援ご指導の程よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

**鈴木事務長**

これで地域協議会を終了させていただきます。  
ありがとうございました。